

和の光

宝塚市立西谷中学校



2年生に期待すること

社会科教諭・2年生担任 西本 舞央

2年生のみなさんには、「社会を知り、どの社会でも生きていける力をつけてほしい」と思っています。これは昨年度から掲げているものであり、入学式には丸山先生のほうから保護者の方に向けてそのような話がありました。なぜこのように思っているかというと、2年弱後の中学卒業後にはこれまで過ごしてきた環境ががらりと変わるからです。みなさんはこれまで同じ仲間と共に学校生活を過ごしてきたと思います。しかし、高校はそれぞれの道を歩むことになります。通学方法や学校での生活、授業、クラスの仲間、すべてがはじめましての状態です。そんなはじめましての状態はかなり久々ではないでしょうか？そんな状況でも、楽しく学校生活を送れるようになってほしい、高校卒業後の未来でも自分なりに生きてほしいと思っています。

そしてみなさんには具体的に、「挨拶をしっかりすることや正しい言葉遣いをする」、「ふさわしい身だしなみを身に着ける」、「けじめのある行動をする」、「自ら考えて動けるようになる」といったことができるようになってほしいと考えています。

そして、みなさんが決めた今年の学級目標は「初心を忘れずに歩んでいこう！！」ですね。教室の後ろに飾ってある虹と雲の目標、私は好きですよ。初心というと中学1年生の1学期ころのことを思い出しましょう。あの頃と今と成長したところ自分で思いつきますか？2年生になって、課題の提出やテストなどの勉強面を頑張っている姿がたびたび見られます。特に提出物に関しては、1年生のころと比べるとすごく出るようになりました。また、このあいだの中間テストでも1年生のころより大きく点数が上がった人を何人か見ました。嬉しそうにニコニコしている姿を見て、こちらも嬉しくなりました。さらに生活面でも敬語がかなり使えるようになったり、自分から挨拶ができるようになったりした人が増えましたね。そして、2年生の素晴らしいところは何か集合があるときに、必ず間に合っているところです。当たり前と思うかもしれませんが、時間を守ることは素晴らしいことだと思います。

勉強面でも生活面でも中1の1学期のあの頃を思い出し、引き続き頑張っていきましょう。



■担任の先生が期待すること

西谷中学生のみなさんは、新学年になった時に決意や目標を定めて、学校生活に臨んでいますね。クラスによっては目標を個別に書いて掲示したり、クラスで一つの目標を決めたり、担任の先生によってその方法に違いはあっても、何らかの取り組みをしていますね。

そのように、**生徒のみなさんが目標を持って学校生活を送るように、学校全体にも目標があります。その目標のことを「学校教育目標」といいます。その学校教育目標を実現するために、各担任の先生は「学級経営目標」を考えて皆さんを指導しています。**今回は西本先生にお願いをして、2年生の学級経営目標を基にして、生徒の皆さんに分かりやすい書き方で、「2年生に期待すること」と題してメッセージを書いてもらいましたので紹介をしたいと思います。

【参 考】

西谷中学校全体の教育目標は、下記に示す通りです。

～人権尊重の精神と園小中 心のつながりを基盤として～
確かな学力（頭を鍛え） **豊かな心（感性を磨き）** 健やかな体（心身を鍛え）
バランスよく備え、逞しく生きる生徒の育成

この学校教育目標について、少し説明します。

人間は一人では生きていくことができません。学校や社会には様々な人がいます。当然、物の見方や考え方も異なると思いますが、お互いのことを尊重し合って、生きていかなければなりません。そこで、人権尊重の精神が必要になります。

次に、西谷の特徴である「園・小・中」のつながりを基にして、生徒の「心」を育てることを大切にしたいと考えています。この2つのことを土台にして、社会で生き抜くために必要な「確かな学力」、「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく身に付けていくことを目標にしています。ちなみに、**「豊かな心」が2番目に書かれているのは、「豊かな心」がなければ「確かな学力」や「健やかな体」は育たないと考えて、2番目（中心）に書いています。**

具体的に「学校教育目標」を実現するために、どのような生徒を育てたいのか、そのためには、どのような教職員であるべきかを下記に示します。

【目指す生徒像】⇒**校長をはじめ先生方が目指す「西谷中学生の姿」です。**

- 『考える生徒』目標に向かって一生懸命取り組む西谷中学生
目標に向けて仲間と協力しながら一生懸命に取り組む生徒を育てる。
- 『支えあう生徒』ふるさとを愛し、自他を尊重する力を身に付けた西谷中学生
ふるさと西谷に誇りを持って、自分を大切に、仲間と支え合うことができる生徒を育てる。
- 『やりぬく生徒』課題に出会った時、自ら解決策を考える西谷中学生
課題に対して学んだ知識・技術を活かしながら解決方法を見出し、最後までやり遂げることができる生徒を育てる。

【目指す教職員像】⇒**校長が願う「西谷中の先生方の姿」です。**

- 生徒が持つ可能性を引き出し、伸ばすことができる教職員
基礎学力を定着させ、生徒の可能性を引き出し、伸ばすことができるように自己研鑽を積みあげる。
- 学校経営に保護者・地域と協力しながら組織的に取り組む教職員
チーム西谷中として組織的に保護者・地域と連携して学校経営を推進する。
- ワークライフバランスを保てる教職員
教職員が心身共に健康な状態で子どもに接するために勤務時間の適正化に努める。

少し、難しい話をしましたが、**「学校教育目標」「目指す生徒像」「目指す教師像」を実現することが、校長の責務だと考えています。そのためにも、生徒・保護者の皆さんが感じておられることがありましたら、遠慮なくお話を聞かせていただきますようお願いいたします。（お手紙に書いていただいても大丈夫です）**（校長 筒井 啓介）

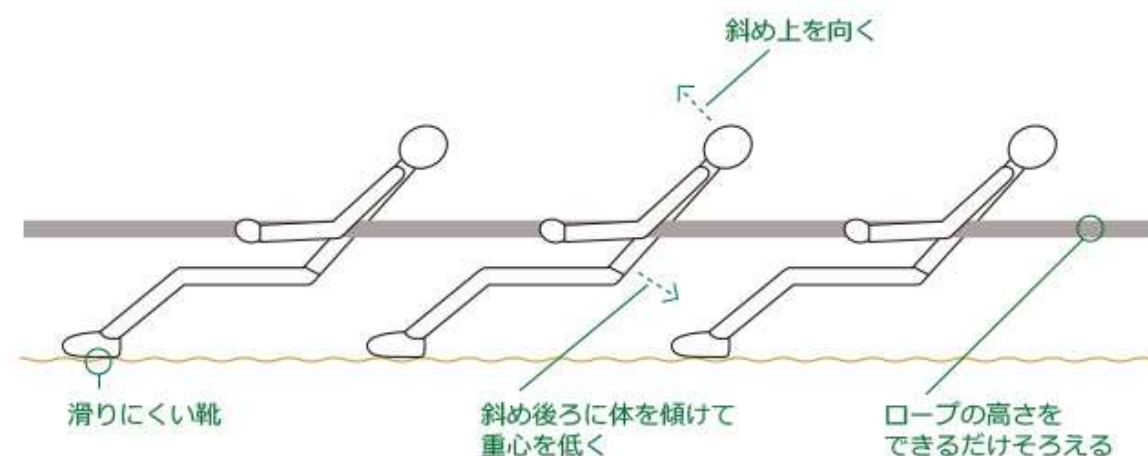
■ふれ合い運動会に向けて6（中学生ダンス）

6月5日、ふれ合い運動会の予行演習を行いました。全ての競技・演技を通して行いましたが、みんな元気に取り組みました。今までの練習の成果が十分に伝わってきます。当日が楽しみです。



予行演習にて（6月5日）

■綱引きのコツ（よければ参考にしてください）



今年のふれ合い運動会では「綱引き」が行われます。しばらくの間、綱引きが行われていなかったため、綱引き経験がなかったり、練習の時間も限られていたりします。そこで、参考に綱引きのコツを紹介します。綱引きはむやみやたらに引いても勝つことはできません。勝つためには、全員の力を合わせて、相手を自分の陣地に引き込まねばなりません。そこで、力学的な思考が応用できれば、知的に勝利を手にすることができます。下記にポイントを紹介します。（私が担任をしていた頃に、生徒に伝えていた内容ですが参考になれば幸いです）

（1）全員が同じ方向に引くことを意識する

みんながバラバラの方向に綱を引っ張ると力が分散します。例えば、1 Nの力と1 Nの力を足す場合、同じ方向を向いていたなら2 Nになりますが、90°の方向だと1.41 Nになってしまいます。つまり、**できるだけ同じ方向に力をそろえることが、綱引き必勝のカギ**。かけ声でタイミングをはかりながら、体を正面に向けて、全員が同じ方向の“ロープの真後ろ”に引くことを意識しよう。

（2）ロープは水平を保つ

「ロープが横から見て水平になっていることも重要」です。まず、身長差によってロープが凸凹しないよう、**背の高い順に並びます**。そして、空を仰ぐように斜め上を向いて、斜め後ろ方向に体を傾けて重心を低くし、体重を利用して引こう。

（3）引くタイミングを揃える

みんながバラバラのタイミングで綱を引いていると、引く力は強くなりません。当然のことですが、全員が同じタイミングで引くことが鍵になります。そのために必要なことは「**掛け声をかける**」ことです。「オー」で引くように、**みんなで大きな声を出してタイミングを揃え**ると力が2倍・3倍と増えていきます。

（4）引き始めて勝利の90%が決まる

ピストルの合図で引き始めますが、**全員が力を揃えて少しでも早く綱を引き込めば、相手は精神的にも焦ってしまいます**。そこで、個々が必死に耐えることで精一杯な状況になります。つまり、**相手チームは全員で力を合わせて綱を引くことができないということです**。